

次に10番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたのでこれより10番上田の一般質問を始めさせていただきます。

今回教育について、それからまちづくりについてを質問項目とさせていただいております。今回楼門の写真を使わせていただいておりますけれども観光には質問は及びません。ただ来年の100周年に向けてずっとこれを、この画像は使わせていただきたいなあと張りつけております。

それでは早速質問に入りますけれども、まず教育について。まあ武雄市の今もう話題になっております教育改革、スマイル学習に官民一体型学校が2本の大きな柱になってるのかなと思っておりますけれども、先ほどの4番議員の質問でも既に答弁がありましたけれども、小学校のほうで導入されておりますタブレット端末。先ほどの答弁でいきますと3,000台ほど導入したものの3%が、およそ3%が初期不良だったというような話を伺っており、大体まあ100台前後じゃないかなというところの答弁でした。それはそれでいいんですが、とりあえずの段階の対応としては予備機を使っての対応をしてくれているということでございます。その後はどうなるのか、まあ100台程度の予備機を、ごめんなさい、予備機を使って対応をするけれどもその後その予備機がまた充当されていって学校の対応、万が一の破損だったりとかそういう場合にストックとして積み重ねられるのかどうか、そこら辺を確認をさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

先ほどもタブレットの不良というかですね、申しあげましたけれども、その具体的な数字といたしまして約100台程度が不具合があった。その内ですね初期設定というか初期不良は約60台です。約半数ちょっとです。後はタブレットの表面、ガラス面を取り替えた分が30台。後、部品交換が10台。まあ内訳としてはですね、おおむねそういう形で、ええ。そのうちの……

〔市長「パーセンテージを言ってよ、パーセンテージを。3%やろもん」〕

全体で約3%であります。そのうちそれで台数的には3%の分で約100台というのになります。その内訳が先ほど申しあげた分でパーセントは0テンいくらぐらいになります、それぞれの。そういう中で今初期不良は先ほど言いましたけれども、初期設定に戻すことによってほとんどが可能でありますので、それは一時期担当課のほうで預かってすぐ返せますので、あとは各学校に置いております予備機で対応するというので、ほとんどトラブルとはなっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

初期不良の話をちらほらやっぱり耳にしたものですからちょっと気になったんですけども、予備機で対応されてその後また、私がかもとも最初に思ってたのはもう予備機はもし万が一壊したりとか、まあその破損があったりとかってというような話があったときにどうするんだってというのが、それが大分議論があつて、それで対応するということでしたので、初期不良はなかなか私も頭になかったもやっけんですね、ちょっとそこら辺だけを1個気になったところでありました。

それではですね続いて官民一体型学校についてでございます。官民一体型学校についてですけども、これも既にもう新聞各紙報道等でもかなり評判になっておりますけれども、これも先ほどの質問と若干かぶるんですけども地域協議会について質問をさせていただきます。

この地域協議会そもそもの目的ていうのがこの官民一体型学校の導入を検討するっていう位置づけでこの協議会を設置するという認識で私はおるんですけども、ちまたではこういういろんなこう見解の違いがあつてですね、そこら辺がはっきりもう一度確認をさせていただきたいなと思うんですけどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

目的は官民一体型学校の導入を検討していただく。それに間違いございません。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。それで間違いなければいいんです。

これが各地域の設置状況はということでございましたけれども、先ほどの答弁の中に既に9校区が協議会を設置されて、残り2校区は今準備中だという答弁だったと思いますけれども、えっとここです、その協議会でちょっといろいろ私のほうにも話を伺うのでちょっとまあ一番多い2点をちょっと声を御紹介したいんですが。

導入の目安っていうかそこをちょっと言葉がね、あんまりいい表現がなかなか見つからずに目安してたんですけど、どこまで実施すれば官民一体型学校って手を挙げたことになるんやろうかというのがですね、これまでに一日一日のこうスケジュールを出されてたんですよ、過去これまでの議会の答弁で。朝月曜日から金曜日までのつて。朝のうちからモジュール授業とか青空教室そこら辺のプログラム、時間割等がこう出てましたけど、こうやりました

いけどこのとおりはなかなか難しいと。でもそこら辺はこう柔軟に各学校裁量でいいのかどうか、そこら辺を具体的に話してほしいということでしたけれどもこれについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

すみません、ちょっとお待ちくださいね。（「算数」と呼ぶ者あり）算数の勉強ばかりで。（笑い声）

お話にありましたように結論としましては各学校と花まる学習会との話し合い、協議によって子どもたちに一番いい形はどれかということになるかと思えます。これまで今お話に出てまいりました、これ今のイメージとして、時間割のイメージとして朝の青い濃ゆい時間というのをモジュールという形で示し金曜日の午後の2時間、青い濃ゆい時間を青空教室という形でイメージを示してもらいました。これはモデル校としてやってもらってます武内小中学校で考えた場合にこういうやり方であるんじゃないかという一つの例として出されたわけで、先般、いやきょうも話に出ております北相木小学校などは朝の時間じゃなくて業間に持ってくると、2時間目の間に持ってくるとかっていうようなことも具体的にはなってくるわけでありまして。また北相木ならではのオリジナルとかですね、そういうような名称等もですね、その学校独自のものが出てこようかと思えます。

したがって要は子どもたちにとってあるいは地域の実情、学校の状況から一番やりやすい形のものをしていただくと。その目安という言葉が非常にこう曖昧な言葉ではあるんですけど、要するに花まる学習会のノウハウなり、あるいはその考え方等を入れた時間というのを設定することになるということと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやあ、ちょっと見解の相違ですね。私はその官民一体型学校っていうのはまあこのとおりね、いくかどうかっていうのはちょっとありますけれども、基本的にこのカリキュラムはやっぱ花まる学習会と学校の先生たちがセットになって出すものですので、それは指定校の中でやる話だと僕は思うんです。

そこで何かね、この部分が例えばモジュールがいいから、例えばね違うその指定校以外のところでやるってなるとね、全体のその発想からつまみ食いにはならないんですよ。ですので僕はそれは反対です。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっとこのまましてもらっていいですか。

いや私が聞きたいのはこのモジュールがこの朝の時間にですね、ずっと入っていると。月曜日は何とか集会とかそういうのがもう結構入ってるってことで、例えば北相木村小学校では先日視察に行ったときに、この例えばこの2時間目と3時間目の間の業間の部分でこのモジュール授業を取り入れているとかっていう事例がありました。

そこら辺を踏まえると武雄でもしその手を挙げたい、やりたい、取り組みたいというふうな学校があったときにその対応が可能なかどうかそこを確認をさせてもらいたいなと思ったんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあそれは可能ですね。それは学校裁量だと思いますよ。

だからそのちょっと僕が聞き間違えてたかもしれませんが、官民一体型学校外の話だと僕はちょっと勘違いしてましたので、官民一体型学校の指定校の中でね、例えばA小学校がまあこのままでいくというんだったらそれはそれであり。やっぱり学校のその独自性からB小学校になった場合、それは先ほどおっしゃってくださったようにモジュールがもう少し3時限目とか4時限目の間に、これはありだと思ってますので、これはあくまでも学校裁量だということを思ってますので教育長と見解はまったく一緒であります。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、そこら辺は柔軟にこう対応していただけるっちゅうことですね。

それではですね——ちょっと切り替えてもらっていいですか——それではですね次のもう一点。10月よりその公開授業を実施している、あおぞら教室が先日公開授業が実施されました。それ以外に、まあいろいろ聞きたいのは要はテレビでこういろいろ出たあのモジュールの授業を実際見たいと、実際学校現場でやるとどういうふうになるのかっていうのを見たいという声がやっぱり結構あるんですよ。

今のスケジュールからいくと、これあの先日武雄町内の説明会のときの教育長の写真なんですけど、今9月なんでもう8月27日のこの武内小はもう既に終了してますけど、10月にもう一回またあおぞら教室があって10月14日、21日にモジュール授業の公開授業が、ごめんなさい、14日はモジュール授業開始ですね、10月21日に公開授業をモジュール分で行っていただくと。ただそうすると10月下旬にはもう創設希望の申請が10月下旬に迫ってくるってことで、これもうちょっとこうその公開授業を前倒ししてもらわれんやろうかとい

う話をですね、相談を受けたりするわけですけど、まあなかなか難しいものでしょうかね、そこら辺は、答弁お願いしたいと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変申しわけありませんが、もうこれがぎりぎりのスケジュールになっております。モデル校としていろんな意味で公開をしてもらっております。そしてやはりこの前のあおぞら教室などはやっぱり高濱代表、また花まるの先生方来られてしていただいて、やっぱりわかりやすいわけですね。ですからそういう意味でモジュールはその武内小学校の先生方お願いしたいと思っておりますけれども、ずっとこれまでこう公開等も続いておりますので、まあぎりぎり相談してこのスケジュールになっております。あとの申請等へのスケジュールがちょっと窮屈になりますけれども、どうか御理解いただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは上田議員のお気持ちはよくわかります。これは前、教育長からも答弁がありましたようにね、例えば福岡に花まる学習会の提携の塾がありますので、まあこれはまったく一緒というわけには多分ならないと思うんですね、塾がやる分と官民一体。ただしかなり僕も何度か見ましたけれども近いものがあります。あおぞら教室よりも実はモジュールのほうが近いのがありますので、もしあの御希望とあらばね、そういった見学のプランも立ててまいりたいと思っています。

これはやっぱり十分な早く見てそこで議論の上でね決めるっていうのは、それはありうるべき姿ですが、ただしこれ学校の現場にすごく負担をかけることにもなりますので、先ほど教育長が申し上げたとおりこの日程を前倒しするっていうのは、まあ前倒し——前田副市長っていますけれど——ちょっとやっばしんどいなということは思っていますので。

ぜひ補完的な話としてそういった塾の見学会っていうのをぜひ開催をさせていただきたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

もうおっしゃるとおりですね。学校現場に負担感が増すとなると、ちょっとそこも何とも言いようがないところでもありますんで。何か福岡の塾の視察ですね、そこら辺で対応をお願いしたいということですね。そこはもっとPRももっとやっていただきたいなと思ってます。私はもう存じ上げておりますけど、はい、ぜひお願いいたします。

それでは続きまして、これは新しくなった武雄小学校です。今回この小学校ちょっと一つ質問を上げたのが、今ですね、全国的にもう学校給食がセンター方式に向かっていったり自校方式に向かっていったり、大体両極端に分かれているんじゃないかなと感じております。

この私どものこの武雄市はまあ食育にも力を入れていただいている関係で自校方式のほうに向かっていくと。先ほどの午前中の質問にもありましたけど、自校方式で外部委託と、要は学校でつくってそれを子どもたちに食べさせる、もう本当に素晴らしいことだなと思うんですけど。今回ですね、この武雄小学校が改築になった関係で実現したのがもともと自校方式ではやられてたんですよ。今回新しく自校方式……（発言する者あり）自校方式じゃない、ごめんなさい自校炊飯が武雄小学校は実現をしております。もう本当に炊きたての御飯が子どもたちの口に運ばれていくというところですね、本当に喜ばしいことだなと思うんですけども、市内ではまだセンター方式のともありますんで、自校方式のほうもまた頑張っていたきたいなと思いますけど。

市内の中で自校炊飯だけでもまず実施できる学校が、まず実施されてる学校ですね、橘小学校、若木小学校、今回改修によって実現したのが山内の東小、西小、山内中学校に武雄小学校。現在この6校が自校炊飯での学校給食を実現しておりますけれども、できれば何とか別の学校でもですね、自校炊飯を実現していただきたいなと思っておるところですがこれについての見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

自校炊飯につきましては先ほどありましたとおり食育の面からも教育委員会としては推進したいというふうな立場におります。

ただそういう中で先ほどありましたように新しく学校をつくる際はもちろん設備整えられますけれども、既存の設備の中でそういうスペースがあるのかどうなのか。先ほどありましたように炊飯の機械あるいは米を洗う洗米機、そういう機械を入れなければなりません。まあそういうことで、まずはちょっと現地を調べさせてもらって学校の要望等を聞きながらですね、推進していければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員（発言する者あり）

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

自校炊飯をするとなるとですね、（笑い声）給食室にその分の……

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○10番（上田雄一君）（続）

スペースが必要になってくると思うんですね。今回その自校炊飯をするためには、その設備を整えることだけでできる学校と給食室を改造しないとできない学校っていう、そういう差があると思うんですね。改造するとなるとまたなかなか簡単にはいかないところかもわかりませんが、設備を入れることによってできる学校があればですね、ぜひ実現をしていただきたいなと思っております。

それでは続きましてまちづくりについて入りたいと思いますけれども、武雄市文化会館の大ホールが老朽化によってランニングコストの高騰、またアセットマネジメントの考えから複合体育館の構想が出ております。

これは白岩体育館ですね、文化会館の大ホール、ここら辺がその老朽化によって、また今回複合体育館の話が午前中にも答弁が出ておりました。それ以外にもですねキッズライブラリーの構想があったり、さきの議会では競輪場もいろいろな答弁をいただきました。それ以外にもまた市役所の本庁の庁舎のこともあります。

今回はちょっとまあ庁舎、競輪場とはちょっとまた切り離して、まずキッズライブラリー、文化会館と白岩体育館、この3つが非常に関連性が高いのかなと思ひまして、ちょっと質問させていただきますけど、さきの議会の中で複合体育館5ヘクタールの土地を今年度中に場所を特定したいと希望ですけどっていうような答弁だったと思うんですが、5ヘクタールだれか紹介してくれんやって、寄付してくれんろかっていうような答弁もあったんじゃないかなとも思うんですが、この場所を特定したいというのがまずありました。キッズライブラリーも大ホールの跡地へって、まあ選挙公約でもあるし、とにかく駐車場の不足を解消もせんといかんからというのもありました。

この中で結局……（発言する者あり）今、今後この武雄市が抱えてるこのハード面の課題っていうのがいろんなところにあるんですけど、今後これをどっからどのように進めていけるのか、そこら辺をちょっと話を伺いたいなと思っておりますけれども、方針っていうかそういう方針があれば御答弁願いたいと思ひますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはやっぱり全体のグランド計画、グランドプランを立てる必要があると思ひています。その上でこれ、ところてんになると思うんですね、ところてんに。ていうのはまず選挙公約にも出していますけれども、このキッズライブラリーが一丁目一番地ということになります。ですので今の文化会館の跡地のいずれかの場所に、まあ景観であったりとかあそこの鍋島の庭園をきちんと保全した上で行くと。その中で例えばあの広大な敷地にそのキッズライブラリーだけということには多分ならないと思ひますので、そのあり方については吉川里己議員にお答えしたとおりに、その市民の検討委員会並びにその車の両輪として武雄市議会にその

特別委員会をぜひ設置をしてほしいということを申し上げます。

その上で、じゃあところてんの先のほうになります、文化会館の大ホールになるのか小ホールになるのか、あるいはその施設になるのかっていう3つの大きな機能がありますけれども、それをどこにどう移転するかあるいは白岩体育館のあり方についてどうするかということについては、私自身再三申し上げますけれども、複合体育館として5ヘクタールの土地にしたいということは思っておりますが、先ほど申し上げたとおり議会の特別委員会ですっかりこう議論をしていただいて、あとこれ市民合意が必ず、これはさらに必要になってまいりますので、病院のときよりもこれは必要になってきますので、ぜひ議論を深めてほしいと思っています。そういった中で私たちとしては、できるところからこうやっていきたいというふうに思っております。

一方で、これ財政負担の問題になってまいります。一方で、その庁舎を新しい庁舎の問題もあります。あとお金のかかる公共施設、例えば公民館であるとかねっていうのがもう寿命を迎えつつあるところもありますし、維持管理に相当お金がかかるところもありますので、実際の財政のプランを横目で見ながらね順を追って、本当はね全部やるのが一番いいと思うんですけど、何せところてんですから。

だから、おいしいところてんになるようにしてまいりたいと。市民合意がきちんととれて市民の皆さんたちが、これならばいいよねとってくださるような全体の計画にしていきたいというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。ありがとうございます。

今話を聞いてて、ちょっと私がもう1回整理をさせていただきますけれども、ところてん方式でやっていくことになるだろうと、その際に検討委員会なり議会でも特別委員会をとということでしたけど、そこで方針を決めるのをそこにもう投げるわけじゃないですよ。そこ全体のそのグランドデザインの道しるべというか、方針あつての検討委員会だったり議会の特別委員会であつたりっていうような感覚でいるんですけど、それはどうですか。もうそこから検討していただくような格好になるわけですか、そこら辺を答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは新しい庁舎のやり方です。ごめんなさい私が答弁があまりうまくなくてちょっと誤解を招いてしまったんですがね。新しい庁舎のあり方についてもまず庁内で幹事会をつくりましてね、全体でこれは私も入りますけれども全体の親、まあ最終的には庁議になるんです

けれどもそこでこう決めていく段取りです。

その時々で素案の段階であったりとか中間案の段階で議会に、これ特に特別委員会にお示しをするということで、相互でこう練っていく形を新しい庁舎においてもそういうふうにしてきましたので、素案をまず私ども行政のほうでつくって政治の世界に投げて、その一方で、これ先ほど申し上げたように、庁舎よりも市民合意がさらに必要になってきますので、私はこれ馬渡さんにぜひ会長になってほしいと勝手ながら思ってるんですけども、その三者でうまく練っていくことになっていこうかというように思っています。

そして繰り返し言って恐縮ですけど、一定期間に集中するっていうのは私どもの財政運営がとてももちませんので、財政のその計画を横でこうつくりながらね、していきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、はい。一遍にやられればそれが一番いいんでしょうけど、一遍にやるとなると一遍に老朽化も一気になくなっていきますし、そこら辺がよくよく考えて進めていただきたいと思うんですけど、どそこら辺はまた次回の質問でもまたいきたいと思えます。

それでは続いて九州新幹線の西九州ルートについて質問に入りたいと思えます。これももう新聞記事で15年度概算要求で開発に28億円という新聞報道もあります。この西九州ルートは現行計画でいけば、2022年にフリーゲージトレインの方式で計画されているわけでございます。この計画でいっても2022年にフリーゲージとなれば、2020年の東京オリンピックにもまだ2年、間に合っていないわけございまして、間に合わないのであればというような考えもいろいろちらほら伺うんですが、まずこの現行、現在の計画ですね。

フリーゲージトレインが、まあ従来の在来線が1,067ミリの走行をガイドレールを使って1,435の標準軌の寸法で走らせるというような、自走変換みたいな形の軌間にあわせて車輪の左右間隔を変えることができる電車ということで、今これが計画をされておるわけですが、今回武雄新鳥栖間のフリーゲージが、私はちょっと課題が山積みじゃないかというところですね、まあ緑色のこの部分ですね、ここについてちょっと今回質問をさせていただきたいなと思っております。

まず時間短縮効果なんですけど、博多から武雄、現行が特急で66分がフリーゲージになると約60分と。6分の短縮ちゅうことで時間短縮効果があるようには到底思えないわけですが、これについてのまず見解を求めたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

友廣営業部理事

○友廣営業部理事〔登壇〕

お答えしたいと思います。新幹線の効果につきましては高速性、安全性、定時性等があり、フル規格で走らせることで最大限の効果を得ることになります。このことからフリーゲージトレインの問題点としてはまず時間短縮効果が薄いということが上げられます。

モニターをお願いします。(モニター使用) モニターをごらんいただきたいと思います。

現在の計画による新幹線開業によって変化する、九州を鉄道時間地図としてあらわしたものでございます。博多・長崎間は143キロで1時間48分、博多・鹿児島間が289キロで1時間20分ということで、普段見なれた九州地図とは大きく異なった地図というふうになっております。

次に具体的に説明をいたしますと、平成23年に全線開通した九州新幹線鹿児島ルートは、新幹線開業前には博多・鹿児島間は特急で4時間22分かかっておりました。これが全線開通後は最短1時間20分と、3時間強の短縮となっております。

一方、西九州ルートは博多・長崎間は現行1時間48分のものがフリーゲージでは1時間20分とわずか28分の短縮しか望めません。距離は鹿児島ルートは西九州ルートの2倍ありながら時間はほぼ同じということになり、現時点では西九州ルートの高速性の効果は薄くなります。これをフル規格にした場合、博多・長崎間は40分と大きく時間短縮が図られます。さらに武雄温泉までの時間を見ますと、現在最速で1時間6分を要しておりますが、フリーゲージでは先ほど議員のほうから御説明がありましたように新幹線のレール幅は約1メートル44センチ、これを在来線のレール幅約1メートル7センチへの変換が鳥栖と武雄の2カ所で必要になりますので約60分ということでわずか数分の短縮しか望めません。これをフル規格で整備を行いますと最短わずか20分程度で博多まで行くことが可能となりますので時間的な効果は大きなものがあります。このことからフリーゲージトレインについてはまず時間的な短縮効果が薄いというふうに考えております。

○議長(杉原豊喜君)

10番上田議員

○10番(上田雄一君)〔登壇〕

はい。モニターをお願いします。

もう本当に今答弁いただいたように時間短縮効果がまずなかと思うとですよ。

今回ですね私が思うのは、やっぱり武雄温泉から佐世保まで。ここをですねフリーゲージで結べば佐世保の人も博多までの時間短縮で、現在よりもおよそ半分の時間で博多までの移動が可能になると思うわけですよ。ただ、今ここをフリーゲージで、フリーゲージをここから導入してここはフルでということではいけばですよ、佐世保からそういう時間帯で博多までの移動が可能になるんじゃないかなと思いますんで、ぜひそこら辺を考えてもらいたいなと思うところでございますが、続いては踏切等の安全面についてでございます。

踏切の安全面については在来線区間の踏切、県内はおよそ90カ所です。武雄市内も高架

にしたことによって8カ所の踏切がなくなりました。それでも県内でおおよそ90カ所の踏切がまだ残っているような状況で、そういうながらもそれでもまだ市内にはこれだけの踏切があります。ほとんどここに載ってるのは北方が多いんですかね。まだまだこれだけの踏切が存在しているわけでございます。

これはまだ記憶に新しいと思うんですが、平成25年の11月5日に起きました事故ですね、列車と大型トレーラーが接触をしたということでの事故です。こういうことが実際起きてます。

運行本数比較ですけれども、こちらが現在の特急電車が上下32本、普通が上下30本、合計62本になるんですが、これが現行計画のままいくとなると上下の特急電車が96本、64本増でおおよそまあ3倍ですね。普通は本数は変わりませんが、トータル的には2.03倍の増ということになります。ただしこれはその計画区域の佐世保線の部分だけに限ったことなんですよね。というのは結局武雄ら辺は、武雄ではこの2.03倍増になるんですが、例えば長崎線も走っている場所、それとか唐津線まあ例えば肥前山口より先ですかね、そこら辺なるともっとふえます。さらに久保田とかの辺にまで行けばもっとふえるわけです。唐津線まで入ってきますので。

そういう感じですね、非常に踏切の遮断時間っていうのも延びるんでないかということとを懸念されておりますけども、ここら辺についての見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

友廣営業部理事

○友廣営業部理事〔登壇〕

議員さん御指摘のとおり安全性の問題も考えられます。モニターのようにですね、現行でも特に朝昼の通勤時間帯には渋滞が発生しております。現行の計画のままでは、先ほど御紹介がありましたように通過列車の本数が現行の62本から126本ということで約2倍になりますので、踏切の遮断時間も倍以上となり今まで以上の渋滞を引き起こすことが考えられます。

さらに先ほど新聞記事の紹介もありましたように踏切事故、それから大雨等による線路等の冠水による影響等ですね、安全性や定時性というそういう新幹線の効果が大きく損なわれるということが危惧されます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、渋滞の映像画像を出していただきましたけれど、ほんとにそういうふうに遮断時間が大幅に上がってくるわけですよ。果たしてちょっと現行計画が可能なのかというようなちょっと言い方をしておりますけれども、これについては皆さん記憶に新しいところでございますけど、7月の3日、大雨による鉄道の、大雨でかなりの影響が出た日がありました。徐

行規制が朝の4時44分に徐行規制が始まりまして、運転見合わせが11時3分。まあ私これを調べるまで4時44分に電車が走ってたことすら知らなかったわけですが、実はですねこれがうちの娘も電車を使って通学をしてるわけですけど、6時9分の電車に乗って10時過ぎに佐賀駅にやっと着いたとかって言いよったですもんね。そっから今度バスにも乗れないというような状況やったらしくて、かなりこう市民の皆さん県民の皆さんにも影響が及んだわけですけど。

これもですねそのときも運転見合わせ解除が6時26分に運転見合わせが解除になりました。この時点でも私もですね、実はその娘がもう電車が完全に止まっている状態ということで部活動全部禁止になって、一斉にみんな帰りなさいってなったわけですよ。したらもう電車もものすごく混んでるわけで、さらに肥前山口の、とにかく行けんということでなんかもう迎えに来いってというような感じになって、そういうことを経験しました。

そのときが運休が特急が約20本、普通が約30本、この約というのはその部分部分で運休したりしてる部分があるということで、まあ約という言葉がついてるんですけど。今回の計画のままいけば、在来線で運休する線路を新幹線が通るといような計画があります。そういうふうになります。それでいいのかというところです。

それと既存のレールがフリーゲージの重量に耐えられるのかという懸念する声も実はあります。というのがかもめの車両が従来38トンらしいです。N700系の新幹線というのが43トン、これ山陽新幹線とかが走ってるところの車両が43トン。今回フリーゲージトレインも今改良に改良を重ねて2トン減らすことができたという前提で43トンまできてるといことです。改良に改良重ねてるので、これからさらにもっと軽量化ができるのかって言われるとなかなか難しいんじゃないかなあと考えております。

従来のこの700系でも43トンですので、ここにもう既にまだ5トンの開きがあります。この43トンっていうのは車両の重さなので、これに乘客乗せるとなるとさらに重量が増えていくわけで今実際、みどりとかそういうのに乗ってても結構踏切って傷んでるんじゃないかなと思うような感じもするんで、それがどんどんどん重くなった車両が走るとなると非常に怖い部分があるんじゃないかなと聞いております。専門家の話によると構造が複雑で精密っていうことで、狂いの少ない線路まで要求をされるという話も伺っております。

先日ですね、ある講演会で今村代議士の話をお伺いしたんですが、秋田新幹線のこの三線軌条、従来この在来線は赤い車幅で走るわけで、ミニ新幹線がこのみどり、グリーン。線路が3本しかなくて、要はこのどっちの車両でも使うこの線路の摩耗が激しいといような話もされておりました。ですのでこれもあんまりよろしくないなという言い方でした。

そういうことを考えて、まあこれもですね以前あったんですけど、秋田新幹線の脱線事故、大雪によっての脱線事故だったんですが、やっぱりこういうレールをここ在来線を使ったりとかしてるからこそこういう事故が起きたんじゃないかなと私は個人的に思ってるんですよ。

フル規格になれば大雪が降ろうと除雪機能も何かついてるらしくて、そういうことを考えればですね、非常に何ていうんですか、フル規格で考えていかないといけないんじゃないかなという気がしておるわけでございます。

ここでちょっと質問になるんですがフリーゲージの開発目的は理解します。要は在来線を走りながら標準軌の新幹線のレールに入っていくことができるというようなために開発がされてるわけですが、果たしてほんとにその機能を生かす機会があるのかどうなのか。つまり山陽新幹線乗り入れは実現するのかどうなのか、ここら辺の見解をちょっとお伺いしたいと思います。

ある専門家によればですね、もうかなりJR西日本はもう拒んでるっていう話も聞きますし、既にもう何かダイヤも過密過ぎて結構状況が厳しいという話を聞いたんですけど、これについての見解を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとお名前は言いませんけどね、JR西日本の幹部の人と知り合いとちょっと話したときにね、もう笑ってました、うん。だれが相互乗り入れとかすんですかって。鈍幹線とだれがすんですかって言いよったですよ。ですのでそりゃあそうですよね。

実際ですね博多駅までトップスピードで来てですよ、そこからフリーゲージになってですよ、鈍幹線になってってなったら、そらあ正直言ってビジネスにならなくてすもんね。しかもそういうのには乗りませんよって言っていましたよ、乗りませんって。ですので相互乗り入れは僕はないと思っています。もうJR西日本は恐らく非公式の場だったんでだいぶ勢いを込めて言われたと思うんですけども、以前ね。まあちょっと考えにくいねということ言っていました。

先ほど上田議員からありましたように確かにもう過密なんですね。今九州新幹線が相互乗り入れでもともとあったところにさらに入ってきてて今度その長崎新幹線がこう入ったときに、あれ名前がよくないですね。西九州なんでしたっけ、西九州自動車道じゃなくて西九州新幹線……（「ルート」と呼ぶ者あり）ルート、名前がよくない。西九州って一般的じゃないですもん、もう長崎新幹線でいいと思いますけどね。ですのでそういう意味で言うと、それはともかくとしてもこの相互乗り入れっていうのはおよそ非現実的だと思っています。

そして僕もフル規格でやるべきだと思うんですね、昭和60年に環境アセスが80%以上終わってるんですよ、終わってるの。だからそこに戻して、ちょっと1年か2年か3年かわかりませんが遅れることになっても、やはりフル規格が大切だということにこのように考えております。そうすると相互乗り入れということが、実現がすごく近くなるんだろうなという認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

10 番上田議員

○10 番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにそうだと思うんですよ。これ要は今の計画からいけば新鳥栖から武雄温泉は在来線区間を走るとなると 130 キロしか出せない。それよりも増してですねフリーゲージは最高速度が 270 でしたっけ、270 キロやったと思うんですよ。山陽新幹線もう 300 キロ時代なんですよ今。そういう時代にフリーゲージがなかなか入れるスペースはないんじゃないかなと思うんですが。

それとですね全国新幹線鉄道整備法第 2 条によればですね、新幹線の定義ってこう書いてあるんですよ。その主たる区間を 200 キロ以上の高速度で走行できる幹線鉄道。

〔市長「それ鈍幹線」〕

この時点でまず新幹線ではないという、フリーゲージトレインは新幹線ではないというのははっきり言えるわけですが。武雄新鳥栖間が 130 キロですね、可能なのかというところで、これは新鳥栖駅、在来線の進入可能なのかというところですよ。

要はこれが新鳥栖駅です、九州新幹線こういうふうには走ってます。ですので今回フリーゲージを使うとなるとこのレールを使ってこの在来線に接続をせんといかんわけですよ。となるとこの黄色いラインが在来線のレールなんですけども、ほぼ直角に交わってる状況でもんね。ここにまあ軌間変更装置なり何なり計画がされてて、こう接続をしていくのかなと思うんですけど。まあやり方はこうあくまでも私が単純に引いただけです、線を引っ張っただけですけど、どうせこがんとくも新しいのをつくらんばなら、もう全部フルでしっかりつくってくればいいのになって思うんですけど。（「そうです」と呼ぶ者あり）はい。（笑い声）

でですね、今回ちょっとまとめますと、既にフル規格の意見書を提出し態度を表明してる議会っていうのは県内にこれだけあります。武雄、嬉野、小城、神埼、多久、嬉野。あ、嬉野 2 回出とう、あら何でかな。ごめんなさい、どっかまちごうとる……（発言する者あり）あらすいません。ちょっと今すぐびんて出てきませんが、これに複線化の区間を高架化してほしいという要望されてるのは大町町、大町町もう既にフル規格というのを表明をされてるようでございます。

そしてこれはあの私どもの話になるんですがまあ九州新幹線西九州ルートフル規格化に向けた研修会ということで県内で先日開催をしました。この席にはですね今村代議士が講演に……（発言する者あり）駆けつけていただきまして（笑い声）話を伺ったわけですが、今ですね県内の議会の関係者の人間で議連、フル規格に向けた議連を立ち上げようというような話になっております。うちもですね杉原議長を先頭にですね、県内の議長会のほうでもその話を協議していただくということで方向づけが進んでおりまして、議長会の会長さんから快諾をいただいたところでございました。

それに踏まえ——目的はもちろんフル規格ですよ——これを踏まえてですね、市長にお伺いしたいんですがフル規格に向けたこれからの市長の動きってどうか、まあ武雄市の取り組みってどうか、そこら辺を全体のフル規格に向けて今後我々はどうすべきなのかっていうところをですね、考えをお聞かせ願いたいなと思うんですがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今手元にね9月6日土曜日付の毎日新聞が手元にあるんですけど、長崎市議会が新幹線フル規格化をということで国へ意見書の検討に入ってるという記事がこうあるんですね。今まで長崎県側は何と言っていたかというぎ、まずもう不十分でもよかけんがフリーゲージっ言いよったわけですよ。だけん僕に対してですよ私に対してですよ、あんまりフル規格っ言うなってわっぱをかけられとったわけですよ、長崎県側から。ですがもう長崎もやっぱこうなってきたんですね、やっぱ。やっぱフル規格はいいというふうになってきてますので、これはよく長崎県と力を合わせてフル規格に声を上げていきたいなというふうに思ってます。

もう中途半端なもんはねつくらんほうがいいです、はい。もうそれよりも多少遅れても構わないし、その財源についてまあいろいろ議論があろうかと思えますけれども、私はしっかりしたものをつくって、それこそやっぱ後世にね残すべき、もしねここでフリーゲージとかしとったら僕ら笑いものになります笑いものに、もう間違いなく。（「間違いない」と呼ぶ者あり）

先ほど上田議員がさまざま御指摘のあったやつが全部露呈してくるわけですよ。あの水害の問題であったり踏切の問題であったり、そこは物事を変えるっていうのは政治家の役割だと思うんですね、ここは政治の出番だと思いますので、そういう意味でやっぱいい国会議員を選ぶ必要があるだろうと思ってますし、私たちも地方政治家としてね、しっかり後押しをしていくことが必要だと思ってますし、そこで公明党が絶対大事になってきます。なぜならば国土交通大臣が公明党なんです。ですの松尾陽輔議員の果たすべき役割は極めて大きいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番上田議員

○10番（上田雄一君）〔登壇〕

もうほんとに何としてでもですね、本当にフル規格を実現せんと後世に笑われると思うんですよ。何とかこの流れをですね、そういうふうにもっていきたいなと思っております。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、10番上田議員の質問を終了させていただきます。